

UDCすみだについて

UDCとは?

UDCとは、アーバンデザインセンター(Urban Design Center)の略称で「公・民・学」が連携するまちづくり組織として、構想対象エリアに拠点施設を構え、未来ビジョンの検討や都市空間のデザインマネジメント等のハード面、まちづくりの担い手育成や地域デザインプログラム等のソフト面、双方のアプローチから、総合的なまちづくりに取り組んでいます。



UDCすみだとは?

UDCすみだは、墨田区が掲げる「大学のあるまちづくり」を一層強力に推進するために、各団体の協力・連携を継続して維持し、共に構想を推進していくためのプラットフォームとして、2021年4月に全国で23番目のUDCとして設立されました。「公」としての墨田区やまちづくり公社、「民」としての区民や墨田区に縁のある企業の方々、「学」としてのiU情報経営イノベーション専門職大学と千葉大学が、共同して墨田区のまちづくりのための企画・構想、連携・推進、情報発信などの役割を果たせるように活動しています。



墨田区(文花地区)に誕生した2つのキャンパス

墨田区内初の大学として、旧曳舟中学校・旧西吾婦小学校跡地および旧すみだ中小企業センターに、2つの大学キャンパスを開設。隣接するあずま百樹園と大学キャンパスの屋外空間を一体的に整備し、地域に開かれたオープンなキャンパスとなることを計画しています。



千葉大学 墨田サテライトキャンパス
デザイン/都市・建築/ランドスケープ/イメージング/予防医学



iU情報経営イノベーション専門職大学
ICT/ビジネス/グローバルコミュニケーション



UDC SUMIDA アーバンデザインセンターすみだ URBAN DESIGN CENTER SUMIDA

千葉大学 墨田サテライトキャンパス1階にオフィスがあります。
「すみだ 大学のあるまちづくり 未来ビジョン」やUDCすみだの活動に興味がありましたら、ぜひお気軽にお問い合わせください。

INFORMATION

〒131-0044 東京都墨田区文花1丁目19-1
info@udcsumida.jp 03-5655-5617
https://udcsumida.jp/



すみだ | Future Vision of SUMIDA Urban Design with Universities. 大学のあるまちづくり 未来ビジョン



キャンパスのように
まちをつくり、
まちのように
キャンパスをつかう



すみだ 大学のあるまちづくり 未来ビジョン

GRAND CONCEPT

キャンパスのように

まちをつくり、

まちのように

キャンパスをつかう



未来ビジョンとは？

東京23区で唯一大学がなかった墨田区では、平成20年度に大学誘致を表明。以降「大学のあるまち」の実現に向けて誘致を進め、令和2年4月には、iU情報経営イノベーション専門職大学の開学、令和3年4月には、千葉大学墨田サテライトキャンパスの開設が実現しました。

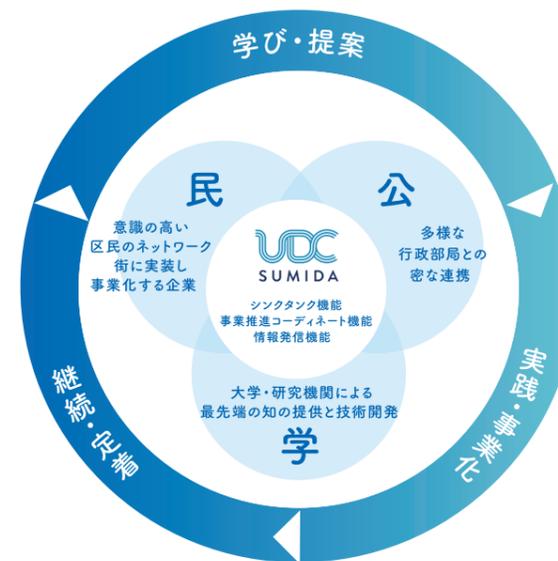
地域と2つの大学が協働して、社会のあらゆる課題の解決をめざす、すみだならではの「大学のあるまちづくり」を推進するために、墨田区・大学・区内関係団体等で構成するUDCすみだを中心に「すみだ大学の

あるまちづくり未来ビジョン」の策定を進めています。

グランドコンセプトを上位の概念とし、10の目標、すみだ100計（100のプロジェクト）で構成される未来ビジョンは、公・民・学のそれぞれが主体者として連携し、いまと向き合い、これからの志向する計画です。策定後も恒常的なものとするのではなく、行政計画とパラレルな関係性をもちながら、社会環境の変化に柔軟に対応する継続性かつフレキシビリティのある運用をめざしています。

公・民・学連携

公・民・学が連携する
持続可能な運用システム



未来ビジョン策定委員会

- 墨田区
- 千葉大学
- iU 情報経営イノベーション専門職大学
- 東京商工会議所 墨田支部
- 東武鉄道
- UR 都市機構
- 東京東信用金庫
- 墨田まちづくり公社



未来ビジョンの基本的な体系



グランドコンセプト

公・民・学の連携により実現する「すみだ」らしい大学のあるまちづくりの将来的なありたい姿、実現したい状態への総合的な考え方



10の目標

グランドコンセプト実現のため主要なテーマ



すみだ100計
(100のプロジェクト)

それぞれの目標に即した、具体的な施策（アクション）

大学のあるまちづくりで大切にすること



POINT 1 誰にでも優しいまち

あらゆるサービスや環境、仕組みにおいて、障害の有無や年齢、性別、人種にかかわらず、たくさんの人々が生きやすいようにデザインする考え方を大切にします。



POINT 2 共創と継続のまち

区民・社会を中心に据えて、ものづくり・サービス・政策等をつくり出すイノベーション創出を推進する「リビングラボ」の考え方を大切にします。



POINT 3 持続可能なまち

国際社会共通の目標であるSDGsの考え方をもとに、環境・社会・経済などを将来にわたって適切に維持・保全し、発展に貢献する取り組みを目指します。

エリア

「公・民・学」の連携による「大学のあるまちづくり」を文花地区をコアエリアに、中長期の視点では、墨田区全域、さらには隣接する区と連携して展開していきます。



すみだ 大学のあるまちづくり 未来ビジョン

10の目標

グランドコンセプトを上位概念に、10の分野ですみだらしい目標を設定。

すみだにある「すみだ百景」「百花園」「百樹園」にちなんだ「100(たくさん)のプロジェクト」を地域に生み出し、公・民・学が連携しながら、これらの目標を実現していきます。



01 エリアマネジメント



すみだに多くの若者が集い、住みたくなる、「職・住・学・遊」の調和のとれた環境を地域・大学・行政が一体となって整備していきます。

地域課題

- 1 多様な世帯の共存**
 - ・集合住宅を中心に、年少・生産年齢人口が多いエリアもあり、多様な世帯が共存・交流できる空間整備が求められている。
 - ・学生や研究者が多く集まることにより、産学交流や世代間交流による活性化に向けて、地域に開かれた施設整備が必要とされる。
- 2 下町風情の保存**
 - ・趣のある建築物が取り壊されて、画一的なマンションや戸建て分譲住宅に変わり、下町らしい風情やまちの特徴がなくなりつつある。
- 3 多様な居住ニーズへの対応**
 - ・若年層を含めた誰もが、住み続けたい、住んでみたいと思える環境づくりが必要。

対象となる行政計画

- 1 文花地区まちづくり方針
- 2 都市計画マスタープラン
- 3 住宅マスタープラン

大学の知または関連する事業

- 研究分野**
- ・デザイン学、建築学、ランドスケープ学、都市工学（環境デザイン、都市デザイン、公共施設デザイン、スマートシティ）
- 研究・連携事例**
- ・大学整備用地活用基本構想の策定
 - ・大学のあるまちづくり未来ビジョン策定

対策の方向性

- 1 多様な世帯の共存**
 - ・地域開放を意識した施設づくりにより、新たな地域交流を促進する。
 - ・人々の暮らしと教育・文化・産業の調和したまちづくりを進める。
 - ・大学及び民間研究機能が集積・相互連携を図り、実践的な教育の推進、時代の先端を捉えた研究・開発の強化を促進する。
- 2 下町風情の保存**
 - ・路地や長屋などの趣あるまちなみとの調和を図り、基盤整備と建替えを促進し、災害に強い市街地形成を図る。
- 3 多様な居住ニーズへの対応**
 - ・若年層の居住支援の在り方について学生等とプロジェクトを立ち上げて検討する。

02 防災強靱化



木造密集地域が多く、また海拔ゼロメートル地帯であるすみだにおいて、大学の ICT・建築・都市環境等の知見を活用し、安全な避難経路の設計や、空き家の解消等を通じて防災機能の強化を図っていきます。

地域課題

- 1 燃えない・壊れないまちの実現**
 - ・区北部は、不燃化率が依然として低い地域がみられることから、共同化、敷地整理等新たな手法の活用を検討していく必要がある。
- 2 空き家利活用**
 - ・空き家の実態調査を行った際に把握した、災害に関する潜在リスクとなる老朽危険家屋に対し、積極的な対応が求められている。
- 3 避難場所の確保**
 - ・地域内に避難場所があることから、大規模敷地の開発に合わせ、避難経路や空地の確保など、防災機能の強化が求められている。

対象となる行政計画

- 1 墨田区基本計画【IV 安心して暮らせる「すみだ」をつくる】
- 2 空家等対策計画
- 3 文花地区まちづくり方針

大学の知または関連する事業

- 研究分野**
- ・建築学、都市環境システム学、ICT（建築設計、建築デザイン、都市防災）
- 研究・連携事例**
- ・アカデミックハウスプロジェクト
 - ・ローカル5Gを活用した地域防災強靱化研究

対策の方向性

- 1 燃えない・壊れないまちの実現**
 - ・建物の不燃化・耐震化、道路拡幅、老朽家屋等への取り組みを進め、燃えない、壊れないまちづくりを推進する。
- 2 空き家利活用**
 - ・大学の知見を活用したアカデミックハウスプロジェクト等、防災性の向上を意識した空き家利活用を促進する。
- 3 避難場所の確保**
 - ・災害に強いまちとして、防災機能の強化を進めるとともに、人々の交流を育む、潤いと憩いを与えてくれる緑地等の空間を整備し、防災機能と生活環境の向上を図る。

03 遊休資産の活用



閉館した旧すみだ中小企業センターを活用して千葉大学墨田サテライトキャンパスが誕生したように、公共・民間施設問わず、地域と大学の交流が生まれる空間を新たに創出します。

地域課題

- 1 防災性向上**
 - ・無接道敷地のため、建替えが困難な敷地や改修等が進まないなど、利活用に課題がある空き家が多くある。
- 2 学生の住まい**
 - ・空き家の適正管理と利活用の推進により、危険な老朽空き家のない地域を目指していくことが必要。
- 3 文化芸術活動の環境づくり**
 - ・空き店舗など、すみだのまちの資源を活用した、個性ある活動拠点を区内に散りばめることによって、新たな魅力を創出し、まちの活性化を図っていくことも必要である。

対象となる行政計画

- 1 都市計画マスタープラン
- 2 住宅マスタープラン
- 3 文化芸術振興基本指針

大学の知または関連する事業

研究分野
・建築学、デザイン学、ランドスケープ学
(建築設計、建築意匠、建築計画)

研究・連携事例
・アカデミックハウスプロジェクト
・町工場の世代と再生
・空き家空き店舗利活用デザイン開発

対策の方向性

- 1 防災性向上**
 - ・街路事業に伴う建築物の建替えにあたっては、路地や長屋等、趣のあるまちなみを残しながら防災性の向上を図る。
- 2 学生の住まい**
 - ・空き家が大学や地域活動団体等により地域資源として利活用を図っていく。
- 3 文化芸術活動の環境づくり**
 - ・区の遊休施設や鉄道の高架下等を活用し、区民が気軽に立ち寄ることができる文化芸術活動の拠点を整備する。
 - ・空き店舗や住宅、工場等を活用してアート活動を行うまちなかの“小さな活動拠点”の活動を促進する。

04 産業振興



ものづくり企業が集積するすみだにおいて、大学が有するデザイン・ICTの知見を活用し、中小企業、商店街等が抱える課題解決を目指します。

地域課題

- 1 働き続けたいまちの実現**
 - ・すみだが「ものづくりのまち」であり続けるためには、技術・技能を次の世代に承継していくとともに、新たな時代に対応した展開が必要。
- 2 商店街振興**
 - ・高齢化、後継者の不在、店舗施設の老朽化、大型店との競合により、厳しい環境にさらされ、小売業の事業所数は減少傾向にある。
- 3 STEAM教育の推進**
 - ・Society5.0の実現に向け、「働き方」も含め社会構造の大きな変化が予想され、社会環境に柔軟に対応する人材育成が必要。

対象となる行政計画

- 1 墨田区基本計画【“夢”実現プロジェクト】
- 2 墨田区基本計画【III 新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる】
- 3 SDGs 未来都市計画

大学の知または関連する事業

研究分野
・デザイン学、建築学、イメージング科学、ICT
(環境デザイン、ファブリケーションデザイン、建築設計、色彩・質感工学、画像解析)

研究・連携事例
・ディープラーニングを通じた色修正マイスターの匠の技の学習
・空き工場の産業拠点化
・伝統工芸産業のステークホルダー分析

対策の方向性

- 1 働き続けたいまちの実現**
 - ・すみだの産業に関わる人がいきいきと働くことができるように、人材育成、産業集積、すみだのものづくりのプロモーションを通じて産業をさらに活性化して、「ものづくりのまちすみだ」を次の世代につないでいく。
- 2 商店街振興**
 - ・魅力ある個店づくりを応援し、こだわりの店の発掘やPR等、個店の積極的な事業展開への支援を行っていく。
- 3 STEAM教育の推進**
 - ・町工場や商店街等、すみだの地域資源を学びのツールとして有効活用するとともに、体験型学習、プログラミング教育に展開し、地球規模の課題にも柔軟に対応できる人材育成を行う。

05 健康づくり



高齢化が高まるすみだにおいて、暮らしているだけで健康になる仕組み・仕掛けづくりを、大学によるデータ分析や医学的知見を活用して実現します。

地域課題

- 1 身体活動・運動の推進**
 - ・新型コロナウイルス感染症のまん延及び在宅ワークの広がりにより、体を動かす機会や外出の機会が減少している。
- 2 地域・職域連携の推進**
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響により、働く環境の変化、経営への負担など様々な影響が生じているため、職域の健康課題を精査し、幅広い連携により課題の解消に取り組む必要がある。
- 3 健康なまちづくりに向けた環境整備**
 - ・区民の健康に関わるビッグデータを活用し、区民・関係機関・社会課題解決型企業・区が、それぞれの強みを活かせる環境整備が必要。

対象となる行政計画

- 1 2 3 すみだ健康づくり総合戦略

大学の知または関連する事業

研究分野
・デザイン学、予防医学、ICT、東洋医学
(環境デザイン、公衆衛生、データ解析)

研究・連携事例
・区民の健康度評価研究
・新型コロナウイルス感染症に伴う繁華街の人流分析
・公共空間における健康増進支援システムの構築

対策の方向性

- 1 身体活動・運動の推進**
 - ・多世代が楽しく参加できる運動、スポーツのイベント、講座の機会を増やしていく。また、デジタル技術等も活用し、身体活動の向上に取り組める環境を整備する。
- 2 地域・職域連携の推進**
 - ・保険者ごとに分断されている健診結果や医療費情報等、分析及び保健事業の実施について関係者と連携し、働く人の健康の保持増進を図る。
- 3 健康なまちづくりに向けた環境整備**
 - ・ビッグデータを活用し、健康の社会的要因等に係る分析・研究を実施し、課題解決に役立てる。また、区民が自然と健康づくりに取り組める「ゼロ次予防」の視点をまちづくりの中に取り入れる。

06 市民科学・人材育成



大学が有する先端知を地域に還元し、生涯学習として区民が学ぶ場を日常的に提供します。また、大学と行政が連携してまちづくりの担い手を育成し、公・民・学連携を一層推進していきます。

地域課題

- 1 活動の場づくり**
 - ・誰もが必要な時に必要な学びを通じて成長し、学んだことを活かせる社会の構築が求められている。
- 2 活動の仕組みづくり**
 - ・人材不足や資金不足、さらには新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な主体が安定的に活動を継続することが困難になっている。
- 3 生涯学習**
 - ・IU、千葉大学と連携した学習事業の創設や地域と大学の交流の場の整備など、区民のさらなる学習意欲の向上につながる、機会と場の提供が求められている。

対象となる行政計画

- 1 2 地域力育成・支援計画
- 3 墨田区基本計画【V 区民と区が協働で「すみだ」をつくる】

大学の知または関連する事業

研究分野
・デザイン学、ランドスケープ学、建築学
(環境デザイン、環境農学、都市デザイン)

研究・連携事例
・町工場廃材活用遊び場のデザイン開発
・アーバンデザインスクール
・アーバンデザイン・アイデアコンペ

対策の方向性

- 1 活動の場づくり**
 - ・地域活動や地域課題解決を目指す活動に取り組むためのニーズに応え、区民が気軽に集い、多様な目的に対応できる施設や、地域環境を整備する。
- 2 活動の仕組みづくり**
 - ・誰もが気軽に区政や地域活動に参画できる仕組みや、個々の知識・経験を地域で発揮できる「学び」と「活動」の循環が生まれる仕組みを整備する。
- 3 生涯学習**
 - ・公・民・学連携組織UDCすみだを中心に、区民の生涯学習を支援するため、区民向けの講座や教室の開講など、多様な事業を展開する。

07 環境問題・持続可能性



すみだゼロカーボンシティ 2050 宣言に基づき、2050 年二酸化炭素排出実質ゼロの実現に向けて、環境を始めとした大学の知見を積極的に活用し、公・民・学連携で脱炭素社会の実現に向けたまちづくりを進めます。

地域課題

- 1 緑のある暮らしを共創する**
 - ・屋上緑化は、管理が不十分で良好な状態が保たれないケースや、設備更新の際に撤去されてしまうことがある。
 - ・緑化などに取り組むボランティアは、参加者の固定化や高齢化が課題となっている。
- 2 すみだらしい食育の推進**
 - ・食育を推進する活動への参加意向が減少しており、食育に関心を持つ区民が、次の活動の担い手になるイメージを持っていない。
- 3 SDGs・カーボンニュートラルの実現**
 - ・2030年のSDGsの目標達成、2050年のカーボンニュートラルの実現を見据え、区民、事業者、区が協働しての地域共創による環境配慮型行動をさらに推進していく必要がある。

対象となる行政計画

- 1 緑の基本計画
- 2 すみだ健康づくり総合戦略
- 3 SDGs 未来都市計画

大学の知または関連する事業

- 研究分野**
- ・園芸学、ランドスケープ学、デザイン学、ICT（環境造園、環境教育、環境デザイン）
- 研究・連携事例**
- ・人と自然が共生する生活環境の実現に向けた調査研究
 - ・画像認識とAIを活用した植栽管理プロジェクト
 - ・千葉大学環境ISO学生委員会との連携
 - ・都市養蜂を通じた食育・緑化推進
 - ・街中植物工場のデザイン開発

対策の方向性

- 1 緑のある暮らしを共創する**
 - ・多様な主体が連携・協働し、建物の接道部・屋上等、生活に身近な場所の緑を増やす。
 - ・緑に対する関心喚起、行動変容につなげるために、イベントや事業者の緑化技術の紹介など、学び・知る機会を充実させる。
- 2 すみだらしい食育の推進**
 - ・区民・地域団体・NPO・事業者・企業・大学等と区の協働による食育活動を地域に広め、「すみだらしい食育文化」を育む。
- 3 SDGs・カーボンニュートラルの実現**
 - ・環境にやさしい働き方・暮らし方の一層の推進により、エネルギー消費量の更なる削減を図ることで、持続的に働き・住まうことができる環境にやさしいまちを実現する。

対象となる行政計画

- 1 2 文化芸術振興基本指針
- 3 墨田区基本計画【“夢”実現プロジェクト】

大学の知または関連する事業

- 研究分野**
- ・デザイン学、建築学、国際教養、グローバルコミュニケーション（環境デザイン、グラフィックデザイン、デザイン文化計画、都市デザイン）
- 研究・連携事例**
- ・インバウンド向け墨田観光マップの作成
 - ・文化財の原状記録とユニバーサルデザイン化研究
 - ・新しい都市観光を具現化するデザイン開発

対策の方向性

- 1 文化と観光の融合**
 - ・芸術活動を行っているアーティストとものづくりに携わる人が、廃工場などを拠点として、共同で製品の企画開発を行う新しいものづくり創出の仕組みを構築する。
- 2 多文化共生と国際交流**
 - ・日本の伝統文化や生活文化を楽しんでもらう事業を拡充するほか、気軽に相互の文化芸術に親しむ機会を提供する。
- 3 地域資源の活用と景観**
 - ・企業等の会議や学会、教育旅行など MICE を積極的に誘致し、区内での消費を促し、外部との共創が起きる仕組みを構築する。

09 都市空間の向上



公園・水辺空間など、既存の公共空間に対し、大学のデザイン・建築・ランドスケープなどの知見を活用し、魅力あるウォークアブル空間を創出します。

地域課題

- 1 魅力的な公園づくり**
 - ・公園利用率や緑率向上に向けて、魅力的な水辺空間や緑豊かな公園の整備を進める必要がある。
- 2 まちのバリアフリー／ユニバーサルデザイン**
 - ・身体障害手帳保持者の約3割の方が「道路や駅に階段や段差・障害物が多く、外出する際に困る」と回答していることから、さらに駅や道路、公園等の整備やまちのバリアフリー化を進めていくことが求められている。
- 3 新たな空間創出**
 - ・大規模敷地における開発などの際には、開放的な空間の創出と周辺環境に調和した景観形成が求められる。

対象となる行政計画

- 1 墨田区基本計画【I「すみだ」らしさの息づくまちをつくる】
- 2 地域福祉計画
- 3 文花地区まちづくり方針

大学の知または関連する事業

- 研究分野**
- ・デザイン学、ランドスケープ学、建築学（環境デザイン、都市デザイン、情報デザイン、ユニバーサルデザイン）
- 研究・連携事例**
- ・あずま百樹園、キャンパスコモン整備
 - ・北十間川周辺の都市デザイン提案
 - ・公共空間の多様なニーズに合わせた利用案内デザイン開発
 - ・新しい都市観光を具現化するデザイン開発

対策の方向性

- 1 魅力的な公園づくり**
 - ・公園全体の再整備や施設のリノベーションにより、公園利用者に親しまれ、多様なニーズに応えられる魅力的な公園を整備する。
- 2 まちのバリアフリー／ユニバーサルデザイン**
 - ・道路等の段差解消、鉄道事業者への支援等に努めるとともに、一定の業種や規模の民間の店舗等のバリアフリー化を促進する。
- 3 新たな空間創出**
 - ・東京スカイツリーを望み水辺と緑を感じる景観、周辺建物との調和に配慮した景観形成を促進する。

08 国際都市



すみだの歴史・文化・産業について、大学ならではの視点でその魅力を再発見し、世界に向けて発信することで、多様な人材や投資を惹きつけ、国際文化観光都市すみだを実現します。

地域課題

- 1 文化と観光の融合**
 - ・本区の地域特性を活かし、文化、産業、観光が連携した魅力あるすみだづくりを推進する必要がある。
- 2 多文化共生と国際交流**
 - ・「多文化共生」を推進するためには、文化芸術を通じた交流の機会を増やし、コミュニケーションを深めていく必要がある。
- 3 地域資源の活用と景観**
 - ・継続的にまちを訪れる人を増やすため、ビジネスや団体の活動に区内外の様々な人が関わっていく仕組みづくりが必要である。

対象となる行政計画

- 1 2 文化芸術振興基本指針
- 3 墨田区基本計画【“夢”実現プロジェクト】

大学の知または関連する事業

- 研究分野**
- ・デザイン学、建築学、国際教養、グローバルコミュニケーション（環境デザイン、グラフィックデザイン、デザイン文化計画、都市デザイン）
- 研究・連携事例**
- ・インバウンド向け墨田観光マップの作成
 - ・文化財の原状記録とユニバーサルデザイン化研究
 - ・新しい都市観光を具現化するデザイン開発

対策の方向性

- 1 文化と観光の融合**
 - ・芸術活動を行っているアーティストとものづくりに携わる人が、廃工場などを拠点として、共同で製品の企画開発を行う新しいものづくり創出の仕組みを構築する。
- 2 多文化共生と国際交流**
 - ・日本の伝統文化や生活文化を楽しんでもらう事業を拡充するほか、気軽に相互の文化芸術に親しむ機会を提供する。
- 3 地域資源の活用と景観**
 - ・企業等の会議や学会、教育旅行など MICE を積極的に誘致し、区内での消費を促し、外部との共創が起きる仕組みを構築する。

10 都市型交通手段



河川・細街路等が多いすみだにおいて、大学の先端知・ものづくり事業者との協働により、地域特性に応じたモビリティを導入します。

地域課題

- 1 自転車活用**
 - ・自転車歩行者ネットワークの構築などにより、自転車交通環境をさらに改善していく必要がある。
- 2 公共交通の利便性向上**
 - ・高齢化社会や低炭素社会などに対応するため、鉄道やバスなど公共交通の利便性向上と利用促進が求められる。
- 3 学生の交通環境**
 - ・大学の開学等に伴う、通勤・通学及び居住者人口の増加に対応した、公共交通施設等の機能強化などが求められる。

対象となる行政計画

- 1 墨田区基本計画【II 地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる】
- 2 都市計画マスタープラン
- 3 文花地区まちづくり方針

大学の知または関連する事業

- 研究分野**
- ・デザイン学、都市環境システム学、ICT学（モビリティデザイン、モビリティ・トランスフォーメーション(MX)）
- 研究・連携事例**
- ・iU MX（電動キックボード社会実験）
 - ・アーバンデザイン・アイデアコンペ

対策の方向性

- 1 自転車活用**
 - ・自転車専用レーン等の整備により、歩行者と自転車の通行空間を分離し、安全で快適な道路をつくる。
- 2 公共交通の利便性向上**
 - ・区内における公共交通のサービス水準等を踏まえ、新たな交通システムの導入の必要性・可能性について検討する。
- 3 学生の交通環境**
 - ・鉄道事業者等の関係事業者と連携し、交通環境の再構築を進める。